

水とみどりと歴史の 回廊マップ

小金南
地区

私たち女子大生が
歴史薫る小金南地区
を案内します。

歩いておよそ120分の
コース。
小金北地区とあわせて
ウォーキングにも最適！

江戸から水戸道中を下り、松戸と我孫子の間の宿場が旧小金宿です。宿の規模は松戸宿よりやや小さいものの、本陣・脇本陣のほか、水戸徳川家専用の旅館がありました。近くには、小金牧を管理した幕府の野馬奉行であった綿貫氏の役宅や、浄土宗の学問寺で関東十八壇林の一つ東漸寺、普化宗の本山一月寺などがある特徴的な宿場町です。

写真：紅葉の東漸寺参道（上）と
小金宿モニュメント（下）

水とみどりと歴史の散策路 徒歩約5km



小林一茶と小金宿

江戸三大俳人のひとり、小林一茶（1763～1827年）は小金と深い関わりがあります。一茶は全国各地に旅に出て創作活動をし、一茶と同じ「葛飾派」に属していた流山の豪商秋元双樹（醸造業者でみりんの開発者の一人）や、当時馬橋に住んでいた、後援者（旅費などを出す支援者）の大川立砂（本業は油屋）の家に、たびたび宿泊しています。このため、一茶は水戸道中をよく利用し、小金宿の俳諧仲間「小金連」と句会を行っています。当時の俳人たちは、松尾芭蕉（1644～94年）を目標とし、一茶と小金連は小金の本土寺に芭蕉の句碑を建て、文化4（1807）年10月12日の芭蕉忌（芭蕉の命日）の句会で、一茶は「芭蕉忌や時雨所の御コンニャク」と詠んでいます。

お問い合わせ

松戸市役所 街づくり部 都市計画課
TEL：047-366-7372（直通）

市のHPでも公開しています



1 東雷神社 “縁結びや合格祈願の神様”

かつてこの辺りは東雷山と呼ばれており、東雷神社は東平賀村の鎮守として置かれていたと地元で伝わっています。

東雷神社から北西に延びた参道が常磐線で分断された後は、村と神社を結ぶ跨線橋が整備されました。神社では現在でも秋祭りが行われており、地元の人でにぎわいます。縁結びや学業成就などの御利益があると言われ、1年にわたりお参りが多いようです。この神社には夏頃に、ここにあった池の水を浴びて雨乞いすると雨が降ったという伝説もあります。

2 根木内城址 “いにしへの城に心ときめく”

出土遺物から根木内城は、戦国時代の前半に当たる15世紀後半には造られていたようです。誰が築城したかなどは、諸説あります。現在は公園となり、空堀・土塁・やぐら跡などの遺構が今も残っています。



市民の憩いの場となっている湿地



城址入口付近



空堀と湿地を望む

3 妙典寺 “徳川吉宗も休息したお寺”

文禄3（1594）年7月12日に直井入道日典上人により開山され、寛永年間（1624～44年）に直井権左衛門の隠居宅を寺としました。享保10（1725）年には小金中野牧へ鹿狩りに訪れた江戸幕府の八代将軍徳川吉宗が休息で立ち寄りしました。境内には、文政8（1825）年、地元の俳人松尾庵探翠が建立した松尾芭蕉の句碑「しばらくは花のうへなる月夜かな」があります（松戸佛教会編集「松戸の寺」より）。

探翠は馬橋の油屋の栢日庵（大川）立砂と同門であり、立砂は息子斗園とともに小林一茶の後援者として馬橋小金周辺の俳壇の発展に尽くしました。



4 旅籠玉屋

旧水戸街道沿いには、江戸時代末期に建てられた小金宿の旅籠「玉屋」の建物の一部が現存し、江戸時代の旅館の風情を残しています。



5 一月寺 “かつて虚無僧がいた普化宗総本山”

かつて小金には、正嘉2（1258）年、金先禅師によって開かれたといわれている普化宗の虚無僧寺院「金龍山一月寺」がありました。一月寺は江戸幕府の保護で発展し、武蔵国青梅の鈴法寺とともに普化宗総本山として知られていました。江戸時代、この宗派に入れる者は武士だけでした。虚無僧寺は檀家を持たず、葬式を行うこともなく、「本則（免許状）」、「会印（証明書）」、「通印（諸国往来自由手形）」の三印と、「尺八」、「大鼓」、「袈裟」の三具などを与えられ、托鉢をしながら修行しました。しかし、明治4（1871）年の太政官布告によって普化宗は廃止され、一月寺も廃寺となりました。現在は日蓮正宗の寺となっています。

6 小金宿本陣跡 “水戸家御用達の休息場所”

小金宿には大名や公家・武家の使節など、位の高い人が宿泊・休憩した「本陣」がありました。徳川御三家の水戸家は、小金宿に専用の旅館を持ち、俗に「水戸御殿」と呼ばれました。水戸御殿は江戸時代初期から幕末まで、代々「玄蕃」を襲名した日暮氏が管理していました。日暮氏の先祖は、中世の頃このあたりの有力者であった小金城主・高城氏の家臣であったといわれています。

小金宿の本陣や水戸御殿はたび重なる大火で失われ、現在はその姿を知ることはできません。



7 東漸寺 “しだれ桜と紅葉は圧巻”

浄土宗の寺院で、本尊は阿彌陀如来です。創建は文明13（1481）年で、武蔵国江戸の三縁山増上寺三世普賢聖観の門弟・経譽恵慮連公上人により、当初は根本内に開かれました。高城氏とのつながりを深め、のちに小金城と地続きの台地上である現在の地に移りました。寺域は広大で、小金城の出城にもなっていました。

高城貞吉の三男貞知は、出家して東漸寺に入り、第七世照譽了学上人を名乗りました。慶長7（1602）年には、生実大蔵寺（千葉市）の源譽上人によって、学問を行う寺の関東十八壇林が定められ、東漸寺はその一つに選ばれました。了学上人は元和元（1615）年に、関東十八壇林の筆頭で徳川家菩提所の増上寺の第十七世住職になり、二代将軍秀忠に仕えて秀忠の葬儀では大導師を務めました。

東漸寺境内にはしだれ桜があり、昭和57（1982）年に市の保護樹木に指定されました。



境内



しだれ桜

8 八坂神社 “京都八坂神社から分かれた小金の鎮守さま”

八坂神社は京都市東山区（祇園社）の神様が分けられ、小金の地で祀られたことが始まりです。現在の祭神は素戔嗚尊ですが、明治時代初めの神仏分離の前は「牛頭天王社」と称され、小金城の高城氏も信仰し、小金町の鎮守とされていました。

北小金の再開発事業により現在の地に移りましたが、当時鎮座していた場所には碑が建てられています。



9 水戸街道道路標・道路元標

道路元標は大正8（1919）年施行の旧道路法により設置が定められ、市町村の役所前や主要な交差点に一箇所設置されていました。往時は松戸町・小金町・馬橋村・高木村・八柱村・明村の六村町に道路元標がありました。いまの道路法では設置義務がなくなったため、道路の拡幅工事などでいつの間にかなくなってしまいました。市内に残っているのは、この旧小金町の道標のみです。



10 本土寺道標

江戸時代後期の文化5（1808）年建立の石標には「平賀 本土寺道 是ヨリ八丁」と、本土寺への道程が刻まれています。本土寺への参道は、現在常磐線により分断されていますが、かつては水戸道中につながっていました。

11 小金宿まつり（例年8月末か9月最初の土日に開催）

旧水戸道中の「小金宿」を偲び、地域の人々を中心となり始められた祭りです。伝統の小金祭囃子、和太鼓、千葉県警・松戸消防音楽隊・小中高の児童による吹奏楽の演奏、さんさん音頭コンテストなどが行われます。特に夜の駅前広場で、たくさんの連が踊る阿波踊りは壮観です。



阿波踊りの連



【製作協力】

聖徳大学 児童学部 児童学科 児童文化コース
大鷹くるみさん・島澤憂さん・島田七海さん・高橋秋穂さん
土門優美さん・豊田香織さん・中村咲紀子さん・藤田春菜さん

【監修】

聖徳大学 児童学部 児童学科
神谷明宏・塚原瞳・小荒井詩織
松戸市立博物館